

～ 別院 だ よ り ～

本 願 力



二〇一五年四月二十五日(土)・二十六日(日) 厳修

御遠忌テーマ
今、いのちがあなたを生きさせている
いまひらく あいのままのわたし

発行 真宗大谷派 本願寺横浜別院
〒234-0051 横浜市港南区日野一―十一―八
TEL (〇四五) 八四一―三四三四
(http://www.yokohama-ootani.com)

工事中のため、一昼夜で勤められた報恩講

思い違い

輪番 竹部 俊恵

越中富山の中山間地域、南砺市井波で育った私は、横浜に来て四年経った今でも、思い違いをすることがいくつもあります。まず、第一に海と山です。私は、生まれてからずっと海を北に見ながら育ちました。その海は能登半島と富山湾の曲がった岸に囲まれ、また、見えはしませんが、対岸の大陸を意識した小さい海です。干満の差もほとんどなく、潮干狩りは出来ません。その打ち寄せる波の表情は、いつも人を寄せ付けない陰しく厳しいものです(そのために魚は種類も多く、とびきり美味しいです)。また、山は南にそびえ立っていて、そこから大きな川が七本、平野を走り、田畑を潤したり工業用水に活用されたりしています。一方、横浜や太平洋側は、海は南に面しており、青々としてどこまでも続くその海岸線は、ゆったりとして雄大です。文字どおり「大海原」です。その海は、いつも人と共にあり人を包んでいるようにも見えます。また、山は北や東の方向の遠くに穏やかに見え、一つ富士山だけが美しい稜線を見せています。このように、海と山は、位置ばかりか見せる表情までが鮮やかに対照的なのに、今でも私は思い違いをします。

第二に、これが横浜に来て四年経っても、私にとっては奇妙に思えるのが、葬儀と墓地の宣伝広告の異常な多さです。北陸では、葬儀や墓地よりも、お内仏(仏壇)が圧倒的に多いのです。「ところ変われば品変わる」とは言いますが、この事実は多分、「ところ」が問題なのではないと感じています。なぜなら、それには証拠があるからです。横浜で見る葬儀や墓地の宣伝広告には、決まり文句があります。それは「失敗しない、だまされない葬儀・墓地選び」という言葉です。「失敗しない? だまされない?」これがどうにも腑に落ちません。ところが、記事を読んで分かりました。失敗しない、だまされないは、なんとお金のことでした。簡単に言ってしまうと「この葬儀社や墓地管理会社・寺院よりも、うちは安くて、そのうえ、

お客様の「おっしゃることは何でも聞きますよ」ということなのでしょう。これが「ところ」ではないという証拠です。この流れで行くと、葬儀は、かかるお金が最大関心事で、そもそも葬儀とは何なのか、生きている私にとってどんな意味があるのかには全く関心がなく、安く安く、簡素に簡素にという思いで業者を選ばされていくラインにハマっていくでしょう。そして、挙句の果てには、死んでしまった人に金をかけるのは勿体ないと、やめてしまう人まで出る始末です。そんなお客様のニーズにもお応えするのが企業の姿勢と、いろんなスタイルのご提案が掲載されています。ここに大きな思い違いが見えてきて、溜め息が出ます。葬儀や墓地に「そもそも」を尋ねず、「いくら」が最大関心事となる話は、海が北にあると思っていたのに、南にあったところではない、悲しさがありません。

そこで、僧侶として、その根っこの部分を確かに伝えてきたかも検証しながら、浄土真宗がいたっている葬儀式の意味を尋ねてみましょう。

一、《枕勤め》亡くなられたお知らせをいただくのと、すぐに自宅にお伺いし、入棺前に仏間にてお勤めをします。

二、《通夜勤行》葬儀式は、あくまでも亡くなっていかけた方が、いとまごいをされている儀式といただきます。通夜は、自宅のお内仏（仏壇）でお勤めをし、蓮如上人のお手紙（お文）を拝読し、法話を聞きます。その後、書いて字のごとく、夜を通

して、徹夜をして翌朝まで棺前で、同じ屋根の下で、共に生活をしてきた亡くなられた方が、してくださいったこと、かけてもらった言葉などをつまびらかに、そして、具体的に語り合います。その語り合いの中から、確かに私は、亡くなっていかれた方によって今があり、亡くなっていかれた方にまで伝えられてきた教えを私も聞き、さらに、次の世代に伝える意欲と使命感を体解し、生前のかかわりに深い謝意をもって、明日の葬儀式に臨みます。

三、《お名残り勤行》葬儀式当日、亡くなっていかけた方が、永年自宅のお内仏（仏壇）でしておられたお勤めの最後を、導師が代わってお勤めをします。

四、《葬場勤行》葬儀壇中央に御本尊阿弥陀如来の軸をお掛けし、亡くなられた方と共々に、阿弥陀如来のはたらきの只中に生きていることを教えてくださった親鸞聖人「正信偈」を唱和します。亡くなられたこと自体が、私に多くのことを教えてくださった仏さまの教えだったといただきます。ですから、清め塩は、用いませぬ。

五、《還骨勤行》火葬をした後、自宅に還つてこられたお骨を、中陰壇に奉安しお勤めをします。この時も「正信偈」を唱和し、その後、白骨のお文を拝読します。お骨は満中陰法要（四十九日法要）まで中陰壇に奉安します。また、分骨して京都・東本願寺に収骨します。

以上が、真宗大谷派の葬儀式の次第ですが、昨今、葬儀式はほとんどがセレモニーホールで行われているため、必ずしもこの流れではないようです。しかし、そもそもは、このように執行され、それぞれには、大切な意味ももっていることを御理解いただけたらと思うのです。

元々、私たちは、誰でも死すべき命をもらって、今を生きております。ところが、日ごろはそのことに知らんぷりをして生きているのが正直なところでしょう。亡くなられたという事実は、そんな私の気持ちや、私を打ち破って「あなたの身の回りや、あなたの身の上」に起こって来ることを、教えるの形といたって生きてくださいね」と呼びかけ、死をむしろ押し返して生きていく決意を促しています。仏教では、亡くなられた日を「命日」（命の日）といただきます。大切にします。また、毎月その日を「月忌」、祥月命日を「年忌」と言い、亡くなられた方を偲びお勤めをすると共に、如来のみ教えを聞かせていただきます。こうして見ますと、浄土真宗の葬儀式は、決して告別式ではなく、いつも尋ねてもみなかった、私が死ぬこと、生きること、亡くなられた方と共に教えるに聞いていく出遇いの儀式でした。昔から葬儀にお参りすることを「お弔い」「弔問」と言います。「弔」は、たずねるという意味があり、「問」は、とうこと。全ては、私をたずね、とう、私のための宗教的儀式でした。思い違いをしていました。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要
 ～別院門徒懇志者について④～

昨年十一月より、御遠忌法要ご門徒懇志金（寄附）をお願いしておりますが、二〇一四年十月二十四日現在の募財状況をお知らせいたします。

【横浜別院門徒懇志金】

金 29,070,238円(220件)

今現在、別院本堂には懇志金を頂戴した方の御芳名を披露させていただいていますが、五月号の別院便りより、本紙にも御芳名を披露させていただくことになりました。

すでにお知らせの通りですが、二〇一四年十月下旬に、黄色の封筒で「再度懇志（寄附）の御依頼」を送付させていただきました。対象は、懇志金を頂戴していない別院門徒の皆様方です。内容は、御遠忌法要の記念事業に関して、本堂修復と「神奈川教化センター」建築のための募財（寄附）のお願いです。

来年四月の御遠忌まで半年を切りましたが、未だ目標金額に達しておりません。大変苦しい経済状況が続いておりますが、今一度ご検討いただき、深いご理解とご協力をお願い申し上げます。

【芳名披露】（二〇一四年八月一日から九月三十日まで・敬称略、順不同）

高松由貴枝、菅幸代、倉本清子、倉本光子、堀井克己、長谷川信道、諸戸康之、中山陽子、岡本靖子、大山昭久、與安登美子、加藤まさ子、鈴木宏子、加納靖夫、釣谷敦子、大石朝子、加藤綾子、鋏田修子、松永朝子、増村幸子、川南熙、田代秀子、以上

神奈川四ヶ組寺院・ご住職、ご門徒の声
 ～これからの別院に期待すること①～

御遠忌を迎えるにあたって、神奈川四ヶ組寺院のご住職やご門徒から、これからの別院に期待すること等のお声を頂戴することができました。ここに紹介させていただきます。

とにかく、別院の教化活動が神奈川四ヶ組寺院の全門徒にあまねく、広く流布してください。教化活動は、各寺院住職の責任であります。特に別院におかれましては、更に重大な責任があると思います。

如来の本願なる言葉が日常生活の中に具体的に生かされていく教化の場にして頂きたい。

（湘南組・法閑寺住職 大住誠）
 次号は、ご門徒の声を紹介します。

別院本堂修復工事に伴う

定例法話について（お知らせ）

本堂修復工事に伴い、定例法話の開催回数と会場が変わりますので、お知らせします。回数は、毎月九日のみとさせていただきます。十八日と二十八日はお休みとさせていただきます。期間は、二〇一四年十二月から二〇一五年二月までとなります。特に会場が別院ではなく、「ウイリング横浜」（ゆめおおかオフィスタワー内・上大岡駅前）に変更しますので、ご注意ください。会場地図は、十一月九日の定例法話の時にお渡しします。皆さんのお出でをお待ちしております。

「定例法話開催日」

【日時】十二月九日（火）午後一時半より

【場所】ウイリング横浜十一階会議室2

【講師】渡辺正法 師（横浜組利正寺）

【日時】一月九日（金）午後一時半より

【場所】ウイリング横浜六階会議室1

【講師】佐々木健太郎 師（横浜組願西寺）

【日時】二月九日（月）午後一時半より

【場所】ウイリング横浜六階会議室1

【講師】伊藤大信 師（横浜組西教寺）

※二〇一五年三月九日より、別院本堂に会場を戻し、開催させていただきます。

二〇一四年度第四回 横浜別院声明儀式研修会のご案内

【日時】 十二月十六日(火) 午後一時半～四時半
 【講師】 友松雅英師(東京二組西岸寺住職)
 【内容】 念讚八淘・御遠忌和讃
 【会場】 願西寺(横浜市中区山手町一七九一六)
 【参加費】 無料 ※寺院・寺族対象の研修会です。

来春の別院御遠忌に向けて、法要次第に沿った内容の研修を行います。間衣・輪袈裟にて、「大谷声明集(上)」 「真宗の儀式」等を持参下さい。お誘い合わせの上、ご参加ください。

※会場が別院ではありませんのでご注意ください。第五回は、二〇一五年三月二十六日(木)に開催予定しています。改めて、ご案内します。

東京(浅草)本願寺をなつかしむ会 横浜別院ご参拝(九月九日)

真宗大谷派浅草別院の元職員の方々に参拝いただきました。ありがとうございました。ございました。



行事予定

十一月

定例法話 午後一時半より

九日(日) 輪番 竹部 俊恵 師

※別院本堂で開催します。

十二月

定例法話 午午後一時半より

九日(火) 横浜組利正寺 渡辺 正法 師

※別院が会場ではありません。ご注意ください。

※十一月十八日、二十八日、十二月十八日、二十八日は休みです。

東京教区報恩講 団体参拝のご案内

日 時 二〇一五年一月二十八日(水)

集合時間 九時 集合場所 横浜別院

行き先 東本願寺真宗会館(東京都練馬区谷原)

会 費 三千元(昼食、交通費が含まれています)

定 員 十五名(定員になり次第締め切り)

交通手段 マイクロバス(十五人乗り予定)

解 散 十七時三十分(別院での解散となります)

※参加希望の方は別院までご連絡ください。

編集後記

今年も気が付けば十一月に入り、秋がだんだんと深まり、寒さが肌に染みる季節となってきました。これから、風邪やインフルエンザも流行ってくるので体調管理にはくれぐれもお気を付けください。

さて、来年四月二十五日、二十六日横浜別院宗祖親鸞聖人御遠忌まで半年を切りました。十一月十日からは別院本堂の内装修復工事が始まります。工期は二月末までとなります。神奈川教化センター(別院庫裏)新築工事と重ねてご不自由ご不便をお掛けいたしますこと、お詫び申し上げます。神奈川教化センターの工事も順調に進んでおります。上棟式を十二月八日に控え段々と形になってきております。完成するのが楽しみになってきました。

(佐竹)